

国民休暇県を取材して

高知放送顧問 小椋 克己氏

高知市観光大学というものが
あります。これは、県外から高
知へ来た方に気持ちよく観光し
てもらうために、誰もが高知の
ことを正しく、分りやすく説明
できるような環境作りをと高知
市の観光課が考え、実施された
ものです。

観光大学では、公募による六
十人が二十数回の講義、実習が
行われます。実習の中に、グ
ループで観光に来た場合を想定
して、みんなで見解を出し合い
一日のコースを決め、それを手
分けして一人が五分ずつバスガ
イドを行うものがあります。

五分の話という、一分間に
話す量は三百三十字程度なので
約千六百五十字分の原稿が必要
です。この原稿が短かすぎるか
長すぎるかはともかく、景色が
どんどん変わって行くので、そ
れにつれて話をするにはその場
所をいやでも見ておかないとい

けません。そして、景色として
は見えない事柄を話に加えてい
くには勉強が必要になるのです。

こうして、観光大学を終了し
た方がボランティアの観光ガイ
ドの組織を作り、活動していま
す。ちょっと考えると観光課が
窓口になってほしいんですが、
やっぱり自分たちが主体になっ
て運営をしていくということが
生涯教育のいいところです。

今のところ二期百二十人が修
了し、その三分の二が組織に加
わっています。こうした生涯教
育の形で地域おこしに参加して
いる一番分かりやすい例が、こ
の高知市観光大学です。

イベント型の地域おこしの代
表的な成功例は、大川村の謝肉
祭です。三千五百人が一斉に焼
肉をするという煙が上がる
か想像してみてください。

このイベントは昭和五十八年
に始められましたが、もともと

は人口の減少でこのままでは村
がなくなってしまうと危機感を
持ち、一晩皆が集まり焼肉を食
べ、酒を飲みながら話し合おう
というのが始まりでした。今ま
でに村人が集まって話し合うこ
とがなかったのとでもいい催
しだったな、今度は知り合いも
よんでやるうかと広がっていつ
たのです。

地域おこしで何かをする場合、
地元の人が楽しみ、それを見た
人がうらやましいと思ひ、来て
楽しむということが大事です。

大川村ではトマトの水耕栽培
を行っています。これも一つ
のイベントのような農業と言え
ます。

鉾山の鉾石を取った後の、木
も草も生えないはずの石ころの
上にハウスを建て、肥料と水の
流れを作りトマトを生産します。
条件が同じなので、一年中同じ
ようなトマトができ、評判も良

く取引価格も上がり、大川村の
農産物の売り上げの四割目ぐら
いになっています。今は四棟の
ハウスで生産をし、一棟では大
きなトマトの木を作り、一万个
の実をならそうとがんばってい
ます。

こういうことをやっている
今度はそので働きたいと若者が
Uターンしてきました。
石の上にトマトを作るとい
うシンボルの農業だったのが、若
者に魅力を与え、呼び込んだの
です。

地域おこしを取材して、町村
は面白いが市部はあまり面白く
ない。動きが今一つまとまりに
くいということがあります。恵
まれていところはこまごまと
した動きがないようです。

「ませの海」「夜須町のマリ
ンタウン」「大岐の浜」とい
った大きなプロジェクトを実施し
て国民休暇県構想を進めるよう
な考えがあるのですが、なか
か思うようには進んでいません。

国民休暇県というのは、もて
なしの心であり、あったか産業
であり、観光の目玉作りでも道
路や施設の整備でもあるのです
が、あまり範囲が広すぎて、分
かりにくいと言われています。

これを分かってもらうためには
イベントのような目につくもの
を進めていくことが必要です。

何か一つが動いてくると、新聞
もその動きを取り上げ、地元
人も見えてくるし、そこに来た
人も変わったなと思うのです。

このように、人の目に留まる
ように作るには情報の発信が重
要です。これは広告を買うとか
ポスターを刷るといったことだ
けではなく、どのように伝わっ
ていくのかを考えないといけま
せん。これまで高知県は情報発
信が遠慮がちなために非常に損
をしています。積極的な情報の
発信が国民休暇県を広めてい
くのです。

第十回市民学校が、五月十一
日から二十九日まで、五回にわ
たって大篠公民館で開かれまし
た。広報では、受講できなかった
方のために、その一部を取り
上げて掲載しました。

また、中央公民館では、市民
学校の講演の録音テープを保存
しています。テープの貸し出し
を希望する方は、中央公民館
(☎03498)までお申し込
みください。